

士別市ボランティアセンターだより ふれあい

● 発行 ●
士別市ボランティアセンター
士別市東5条3丁目
サポートセンターしべつ
士別市社会福祉協議会内
TEL 22-3012
FAX 22-3019

土曜ボランティア学習塾「さぼてん」の活動

【9月】

例年は5月に行っていた開校式でしたが、今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、9月の開催となりました。

当日は、士別中学校、士別東高校、士別翔雲高校から計12人の塾生が参加し、アイスブレイクや自己紹介を行った後に、初参加の生徒もいたので「活動目的」「ボランティアってなんだろう?」「昨年度の活動紹介」を行い、今年度どのようなボランティアをやってみたいかを考えました。また、今年度の代表と副代表を決めました。

代表…玉木 佑季さん（士別翔雲高校）

副代表…工藤 眞子さん（士別東高校）



【10月】

2回目の学習塾は、士別手話サークルの林さんと加納さんを講師に手話体験を行いました。始めに講師の二人から手話で挨拶と内容を説明がありました。

林さんより「耳が聞こえないこと」の生い立ちから聾（ろう）学校で勉強した話、現在の生活を手話で話されました。

次に、あいさつや自己紹介、自分の名前の手話等を教わり、最後に二人一組で手話での挨拶の発表を行いました。講師から「手話は、手の動きだけではなく口の動きや表情を合わせて相手に伝えることが大切」と話され、参加した塾生の皆さんは、少し照れながらも、表情豊かに一生懸命表現していました。

上手に手話ができている、講師の方からもお褒めをいただきました。

※飛沫防止のためにマウスシールドを着けて行いました

「令和2年度士別市民ボランティアスクール」開催

10月16日「Withコロナのボランティアと地域活動」をテーマに令和2年度士別市民ボランティアスクールを開催しました。コロナ禍の今、従来の地域福祉活動が困難な状況で感染症予防として気をつける事、どのように活動していけばよいかについて、親栄自治会の富長幸子氏から「自治会サロン活動について」実践発表をしていただきました。

年5回開催していたサロンはしばらくの間、中止。7月からようやく再開し、「人数制限」「マスク」「消毒」「間隔」をとり、「換気」しながら「時間短縮」などの感染症予防を考えながら実施。外に出での庭めぐりや屋外での車椅子体験など工夫をし、進めているとの事。今後は情勢を見て感染症に気をつけながら活動していきたいと話されていました。



次に士別市生活・介護サポーター自主会ふまねっと委員会の佐々木ふみ江氏から「ふまねっと運動について」発表をしていただきました。緊急事態宣言から5月末まで、いきいき健康センターの休館に伴い、ふまねっとサロンは中止。6月に再開し、徐々に参加者は戻って来ている。今は従来の「ふまねっと」ではなく感染症予防として、隣の人と距離をあげ、参加者同士、ハイタッチなどの接触を控え、大きな声は出さない等注意し進めている。また、家でも気軽にできる「ふまねっと」を開発、楽しみながら活動していると話されました。

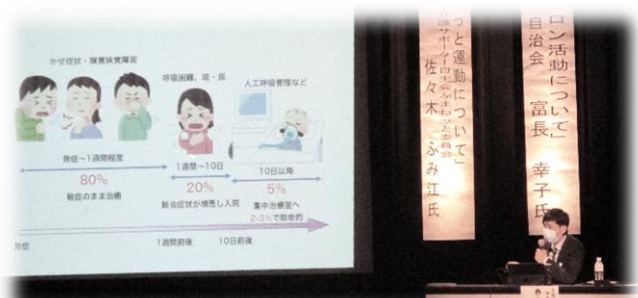


最後に「コロナ禍での地域活動に向けて～感染症予防で心がけること～」をテーマに、士別市立病院、感染管理認定看護師の春名進之介氏から講話をしていただきました。2月末から世界に感染が拡散されているCOVID-19(新型コロナウイルス)は現在も感染が拡大中です。この影響を受け士別市でも様々な地域活動の中止や縮小が余儀なくされました。住民同士や地域とのつながりの希薄化、孤立などの不安やどのような地域活動を行っていけばよいか、迷いを抱えながら活動の仕方を模索している状況の中、「正しい情報収集」と「対策の継続」が地域活動には重要と話されました。

今回の講話では、①マスクの正しい使い方、②手指衛生～手洗いと手指消毒～③清掃と消毒をポイントに、なぜマスクや消毒が必要か、具体的にどのように行えばよいかを学ぶことができました。

ところで皆さん、机などを消毒する時はぐるぐる拭くよりも常に一方方向で拭く方が効果があることはご存じでしたか？

先の見えない不安に身体も心も疲れてしまわないように、マスクの下に笑顔と優しい気持ちをもって過ごせると良いですね。



ぐるぐる拭くのは × 常に一方方向に ○